

2009近畿まほろぼ総体報告

地元三重県で行われた東海高校総体陸上競技・男子800mで本校陸上競技部3年生楠直也が、1分55秒52で5位入賞、女子やり投げでは同じく3年生の仰梨江が45m20で見事優勝を果たし、奈良全国高校総体への出場権を獲得。東海総体後、本番を想定した強化練習を積み、7月29日より行われた2009近畿まほろぼ総体に挑みました。会場である奈良県奈良市の鴻ノ池陸上競技場はベルリン世界陸上と同じ青いトラックです。気分を新たに入賞を目指しての戦いは始まりました。

天気予報では天候の悪化が懸念されましたが、現地に着くと同時に天候は回復に向かい総体期間中は真夏の炎天下の中競技を行うことになりましたが、出場2選手共に全力を尽くした戦いぶりを見せてくれました。

7月29日の正午、まず女子やり投げの予選です。今年は50mを超えている選手が4名、ランキング10位以内の選手は全て46m以上とかなりのハイレベルです。東海総体優勝の実力を発揮すれば、十分入賞は可能ながらも激戦が予想されました。

予選通過記録は44m50。45m以上を2回記録している仰からすると十分可能な記録。決勝進出を目指しての一投目、まさかの36m台とベスト記録に大きく届かない投てき。2投目はファール。かなりの緊張があるのか助走のスピード、力強さ、動きのキレがいつもと違う感じがしました。順調に記録を伸ばす選手もいれば、記録を持っていながら、苦しんでいる選手もいる状況の中、いよいよ最後の3投目。ここで記録を出さなければ終わってしまいます。助走に入り、懸命の投げは大きな弧を描き、この日の中では一番大きな投てきとなりましたが、結果は38m15の予選2組の21位。残念ながら一昨年の牧玲佳に続く決勝進出、入賞はなりませんでしたが、新潟国体ではやってくれるでしょう。

31日からは楠が出場する男子800mです。2年時の1分59秒から記録を大きく伸ばし、激戦区の東海を突破した勢いをそのままに、田牧('91)、河瀬('03、'04)といった大先輩に続き、予選通過を果たし決勝進出を狙いたいところ。予選9組の2着+6。出場組7組の中での記録は5番手です。予選通過をかけたレースは13時開始。いよいよスタート。1周400mを56秒で通過。4番手についてラスト1周です。やはりバックストレートからは大混戦になり、いったんは5番手にはじかれてしまったもののラスト200mから巻き返し、最後の直線では1,2番手を追い込み3着でゴール。着順では及ばなかったものの1分55秒08の自己新記録でプラス上げとなり、見事準決勝進出を決めました。準決勝はその日の夕方6時。楠の出場する1組は1分53秒台がずらりと並ぶ決勝並みの顔ぶれとなり、非常に厳しい組です。しかし練習では1分53秒台を狙えるタイムを記録していることから自信をもってレースに挑みました。涼しくなった雰囲気の中スタート。積極的に2番手につき1週目は55秒、絶好の位置についてバックストレートに入ったところでレースが一気に動きました。ラスト300mからのスパート合戦に必死にくらいつきましたが勝負どころのラスト直線に力は残っていませんでした。1分55秒60の7位。全体の16位でした。決勝進出は果たせなかったものの、楠、仰、2人の頑張り、選手、顧問、そしてはるばる伊勢より駆けつけた30人以上の本校陸上競技部員ともども、真剣に入賞を目指した戦いから、大きなものを得たのではないのでしょうか。現在、1、2年生の部員の活動としては、9月中旬に行われる県新人大会に向けて練習に励んでいます。伊勢高校陸上競技部として、目標にむけて充実した活動をさせていただいているのも、ひとえに応援くださっている皆様のおかげとっております。陸上競技部OB・OG会の皆様を始め、数々の激励、支援をくださった皆様方に感謝しつつ活動報告とさせていただきます。

陸上競技部顧問 古西 敏彦
橋本 真治
村嶋 輝久